

## 一言一日

一月にあつたファイギユアスケートの全米選手権。演技を終えたばかりの井上玲奈選手のそばに、パートナーのジョン・ボルドウィン選手がひざまずいた。「残りの人生を一緒に過ごしたいんだ」▲きよとんとする彼女に彼はもう一度求婚する。事態を理解した彼女。拍手と歓声が会場を包む。会場のアナウンスも心憎い。「シー セッド イエス！」。

保険会社のテレビCMにも一部使われている、今年最も有名なプロポーズの場面だ▲プロポーズは人生の一大事。ここまで派手な演出はなくとも、言葉や二人の関係次第で感動的になる。

NPO法人地域活性化支援センターが昨年から開催している「プロポーズの言葉コンテスト」からうかがえる▲「途中参加のパパだけど、本当のパパにしてください」とは、シングルマザーの女性が受けた愛の言葉。「僕だって幸せになりたい」という言葉に、自分も誰かを幸せにできると喜んだ女性もいる▲遠回しの求婚に返事を先延ばししていた女性を後押ししたのは、「今ならもれなく一生幸せ保証付きでお買い得です！」。

今年の最優秀となったこの作品は、恋人の聖地の一つ、城岬公園（高松市庵治町）の石板に刻まれている。夕日に映えるこの公園でのプロポーズもおすすめた▲プロポーズの言葉なんて頭の隅に追いやったという女性も、忘れたふりをしている男性も、たまには思い出してみてもいいかが。深まる秋の肌寒さを、あのとときの勇気とうれしさが温めてくれるだろう。